

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年4月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102308
法人名	有限会社 コンフィアンス
事業所名	グループホーム 草牟田
所在地	鹿児島県鹿児島市草牟田二丁目9番30号 (電話) 099-210-7734
自己評価作成日	令和6年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者が住み慣れた地域での生活を継続するために、身近な生活圏域として立地しています。
 コロナ感染の状況をみながら、昨年8月より、ご家族との外出や外泊も行っていきます。又、面会は1階にある会議室にて予約制で行っています。今年はお花見や外食も行いました。又、季節の行事もその時々で行うことができました。
 今後は日常生活の中で、外出や散歩も取り入れられるよう努めていきたいと思っております。
 入居者様が個々の尊厳と生活の質を保ちながら、幸せな生活を送ることができ、ご家族の皆様も安心していただけるよう、日々研修を重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、1階が多目的ホールになっており、職員の会議の場所だったり、家族等の面会の場所にもなっている。近くには、スーパーマーケットや医療機関・銀行・会社等があり、中心地にありながら過ごしやすい環境の中にある。
- ・開設して4年、町内会に加入して、少しずつ地域との交流も出来てきている。
- ・コロナ感染状況を確認しながら、運営推進会議を開催したり、面接の制限を改善する等、家族や知人、友人の馴染みの関係の継続に工夫している。
- ・職員間のコミュニケーションも良く、勤労年数の長い職員も多い。事業所では、内部研修や外部研修等への参加を推進し、職員の質の向上にも積極的である。管理者は職員の個人的な相談や休暇相談にも快く応じている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの精神を基に、社内研修等で理念に基づき、情報を共有し実践に努めている。入職時には、必ず理念を伝えている。	会議室や各ユニットに法人の理念や基本方針を掲示し、重要事項説明書にも掲載している。月1回の合同会議やユニット会議・申し送り時に確認している。入職者は入職時に理念を徹底している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は難しいところもあるが、近所の方とは雑談の中でホームを気にかけて下さっている様子がわかる。2か月に1回開催される運営推進会議では、民生委員と情報の共有を行っている。又、野菜などを持ってきて下さりありがたく思っている。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議等で情報を得ている。町内会の話し合いに職員のみ参加している。高校生や看護学生の実習を受け入れている。地域の方から花や野菜の差し入れや周辺の散歩時に挨拶程度の地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	開設して4年が経ち、突然の来訪や問い合わせの電話も少しずつ増えている。その際は、相談に応じて認知症について説明を行い、地域の事業所としての役割に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	本年度は、おおよそ2ヶ月に1回のGHはららとの合同運営推進会議を開催することができた。参加人数も増えて、毎回活発な意見交換が行われている。又、質問も多く、いただいた意見を基に、サービス向上に努めている。	2ヶ月毎にグループホームはららの事業所と合同で運営推進会議を開催している。対面で実施して生活状況・入所者状況・外部評価・ヒヤリハット・事故等を報告している。災害時の備えについて質問があり、参加者と意見交換をして対応している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者は市町村担当者に事業所の考え方や、運営や実情等を市町村に出向き考え方や運営の実態を共有している。事故については必ず報告している。市の方からは、事故報告の詳細についての問い合わせが多くなった。	窓口に出向いて提出書類を持参したり、電話で相談したりしている。地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加がある。市主催の研修はオンラインで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修・内部研修の中で、身体拘束は禁止という認識を持ち介護に取り組んでいる。委員会では、身体拘束にあたるかどうかの事例について話し合いを行っている。又、日々の介護の中で気になる事は、職員から質問があり、それについて検討している。	マニュアルがあり、身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催している。内部研修の中でも虐待を含めて勉強会をしている。言葉遣いについて気になる場合は管理者が直接職員へ伝えている。日中の施錠はしていないが必要時の施錠は安全の為にする場合がある。外出希望者は周辺の散歩を一緒に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づき、研修で繰り返し学んでいる。特に、ケアマネやフロア責任者は、日常から虐待について注意を払い、見過ごされることのないよう努めている。気になる事例があった場合は、直ちに管理者に報告を行い、改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い、後見人制度や高齢者虐待についての勉強会を行っている。後見人制度を利用している利用者様については、後見人とのやり取りや依頼されて事について協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結や解約時、改定の際は、十分な時間を取り、事業目的や重要事項説明を丁寧に行い、ご理解をいただいている。入居中の様々な質問にも、可能な限り丁寧に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様へ日頃より意見や要望等を聞き、管理者やケアマネジャー、職員と話し合い改善に努めている。ご家族様には状況報告時に意見や要望等の把握に努め、運営に反映させている。ご家族様からの質問や要望は、ケアマネやフロア責任者と共有し解決している。又、苦情については、全職員と共有し、改善に努めている。	利用者には日々の関わりの中で意見を聞き、申し送りノートに記録している。家族には面会時やラインで意見を聞いたり、草牟田便りを毎月家族へ送付して意見を聞く機会づくりをしている。家族からの意見や要望等は職員間で話し合い対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	「気付きシート」を活用し、フロア会議等で繁栄させている。管理者は、ケアマネやフロア責任者等から意見や提案等を聞き、運営に反映できるよう努めている。又、職員の意見等は、管理者から代表者に伝えている。	管理者はフロア会議や申し送り時・日頃の係わりの中で意見や提案を聞いている。管理者は年2回面談もしている。個人的な相談にも応じている。昼休みの時間も確保できている。管理者だけで決定できないことは代表者へ報告をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、職員の勤務状況や労働時間等の報告を受け、各自が意欲向上に向かえるような職場環境の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、管理者が立てた内部研修・外部研修計画に基づき、研修の機会を確保できるよう、日頃から職員を育てる取り組みを支援している。又、各研修についても、研修費の支援や勤務調整を行う等、対応している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の中、地域の事業者間の交流会は減少しているが、オンラインの研修会等の機会の確保に努めている。その中で、同業者との意見交換、情報共有を行い、サービスの質を向上させていくよう取り組みを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった場合は、事前面談を行い、生活状況、心身状態、本人の思い等に向き合い、入居後の信頼関係をスムーズに築く事ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の面談においては、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。ご家族の困っている事や不安な点、ご家族の要望等について、時間をかけて話を伺い、今後の関係づくりに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用相談時は、ご本人やご家族の状況等を確保し、現時点での必要なサービスを提案できるよう努めている。必要があれば、他事業所の紹介や仲介を行っている。又、施設に訪問している様々なサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという気持ちを持ち、残存機能を活かした支援を心がけている。その中で、その方に見合った家事を行えるよう声掛けをしたり、環境整備を行っている。又、共に生活している者同士、職員と利用者様の関係が一方的なものとならないよう努め、互いの関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナ感染が落ち着き、ご家族様の係わりも増えてきつつあり、ご家族様との面会や外出をされる利用者様も多くなった。ホームとしては、どなた様にも日頃より状況報告を行い、ご家族様と一緒に介護を行っていただけるよう、受診介助や面会、電話等の協力をお願いし、一方的な介護にならないよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会や電話、手紙等の支援を行うことにより、入居により馴染みの関係が途切れないよう努めている。最近では、友人や親戚の方々の面会も増えてきている。</p>	<p>家族や友人・知人等の面会は予約をして1階の会議室で実施している。手紙・電話・はがき等の取次ぎをしている。定期的な美容師の訪問がある。家族の支援により外出・墓参り・外泊等の支援を行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は、常に利用者様同士の関係の把握に努めている。リビングの座席等も考慮し、日中楽しく過ごしていただけるように努めている。他利用者様から言動を批判される利用者様に対しては、職員自身の言動の振り返りを行うよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了時は、退居後の病院や施設に情報提供を行い、ご本人やご家族様の意向も伝えている。又、サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネージャーが中心となって、ご本人の意向の把握に努めている。又、ご本人の意向は、会議やソーシャルメディアを活用し、職員間で情報共有を行っている。	日々の生活の中で思いや意向を聞いている。主に入浴時や夜勤帯で聞くことが多い。困難な場合は、話しかけに対する反応や表情等や家族に聞いたり、生活歴等から把握して職員間で情報を共有して支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の際は、管理者やケアマネージャーが情報提供書による把握やご家族様、関係者からの生活歴を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報は、管理者やケアマネージャーが詳しく聞き取りを行っている。入居後は、心身状態の変化を見逃さず、記録物やソーシャルメディアを通して情報共有を行い、現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議にて職員の意見を出し合い、一人ひとりの課題について検討している。又、主治医や訪問マッサージ・訪問歯科の先生からもその都度アドバイスをいただき、介護計画に反映させている。	本人や家族から意見を聞き、毎月のフロア会議やカンファレンス等で課題を検討し、主治医や訪問歯科医・訪問マッサージ師等からアドバイスを得て介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に、見直しは6ヶ月毎に変化時はその都度見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々の様子や気付き等を本人の言動を元に個別記録に残し、情報共有を行っている。ケアマネージャーは、それらを介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の要望に応じて、通院や外出、買い物等の支援を行っている。又、それぞれの利用者様のその時々に必要な支援を見極め、介護保険サービス以外の支援にも柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、地域資源との協働を行っている。徐々に地域の方々にも、グループホームや認知症についての理解や協力も得られてきているように思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を確認し、ホームの協力医や訪問診療を行う病院の説明を行った上で、納得のいくかかりつけ医の選択ができるよう支援を行っている。おおよそのかかりつけ医とは、24時間体制で相談・報告を密に行い、信頼関係を築いている。又、必要に応じて、他科受診も支援している。	入所前の医療機関からのかかりつけ医となっている事から数ヶ所の医療機関が主治医となっている。定期の受診や他科受診は家族が同行している。必要時往診のある主治医もいる。24時間医療連携がとれている。歯科は定期的な訪問診療がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回、看護職員による健康観察を行っている。通常は、毎日看護師が勤務しており、情報共有を行いながら、利用者様の体調不良時に適切に対応できるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院となられた場合は、医療連携室や看護師、医師と連携を取りながら、早期退院と適切な治療が受けられるように努めている。又、退院後は安定した生活が送れるよう必要な支援等について、医療との連携に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に、重度化した場合や終末期についての事業所の方針を説明し、ご本人やご家族様の意向を伺っている。又、入居時に「延命措置に関する意思確認書」の記入をお願いしている。又、重度化した場合においては、事業所の力量について説明を行い、臨機応変な対応に努めている。</p>	<p>マニュアルがある。入所時に説明をして同意書を書いている。重度化した場合、主治医へ相談し家族へ病状について説明し、家族の意向を確認している。他の施設や医療機関等の紹介もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時には全職員が対応できるように、定期的に研修を行っている。又、急変時や事故発生時の対応方法や連絡方法についてはフロアに掲示し、繰り返し全職員に周知を図っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員研修にて災害対策の研修を行ったり、利用者様と一緒に定期的に訓練を行っている。又、運営推進会議等で、地域の方への協力もお願いしている。災害発生に備えて、食料品や飲料水の備蓄、必要物品の準備も行っている。</p>	<p>年2回昼夜を想定して防災訓練を実施している。1回は消防署の立ち合いがある。1回は避難誘導の自主訓練をしている。避難場所は駐車場になっている。運営推進会議で地域の方へ協力の声掛けを実施している。備蓄は水・米・菓子・缶詰・レトルト食品等、3日分程度。懐中電灯・オムツ等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修でプライバシー保護や人格の尊重について繰り返し学んでいる。気になる言葉かけや対応については、会議等で話し合っ改善している。又、職員同士で、常日頃から会話、言葉遣いに十分注意を払うよう気を付けている。</p>	<p>マニュアルがある。毎年内部研修で接遇やプライバシー等について勉強会を実施している。入浴時やトイレ使用時のドアの開閉や入室時のノック等、プライバシーに配慮している。利用者は苗字で呼んでいる。申し送りはその時々で場所を変えて実施している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中で、それぞれの利用者様の思いやして欲しい事・したい事等を話しやすい雰囲気づくりに努めている。又、ご利用者様へ希望を伺うよう気を配っている。夜勤者に漏らした言葉等からも本人の思いを把握するよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、個々の性格やペースの違いに配慮し、できる限り個別性のある支援に努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>好みの服を着たり、ご自分で化粧ができる方はそれぞれ行っている。又、物品購入の支援やご家族様への依頼もその都度行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は作らず、利用者様と相談したりリクエストに応えたメニューを取り入れたりしている。又、誕生日はご本人の好きなメニューを提供している。行事食のメニューも利用者様に喜んでいただけるよう気を配っている。できる方には簡単な作業のお手伝いをお願いしている。	その日の状況により、献立はみんなの意見で作り、食事形態にも対応している。行事食はおせち・ひな祭・敬老会等は手作りをしたり、外部の弁当を依頼している。誕生日食はリクエストメニューとケーキで祝いをしている。利用者とお盆拭きや皮むき等を一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に個々の状態を把握、記録している。それぞれの利用者様の状態にあった水分量、食事量を提供している。又、嫌いな物や食べれない物を把握し対応している。自己摂取が困難な方には食事介助を行い、必要に応じて補助食品等も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居後、協力歯科による検診をお願いし指導を受けている。毎食後は、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。又、ご利用者様の状態や希望に応じて、訪問歯科による定期的な口腔ケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄機能を活かし、ご利用者様の状態に応じた排泄の支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握やトイレ誘導を行い、できる限りトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握してトイレへの声掛けや誘導介助を実施している。2人介助でトイレ誘導の場合もある。夜間はオムツやポータブルトイレ使用者がいる。リハビリパンツから布パンツに変更になった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握している。オリゴ糖や水分をとっていただいたり、主治医に相談し個々に応じた便秘薬の使用を行っている。又、トイレ誘導や体を動かすことで、排便の促進にも気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者様のその日の状態や希望に応じて入浴を支援できるよう努めている。一人ひとりの習慣や好みを職員で共有し、個別にあった入浴の支援を行っている。又、羞恥心・恐怖心へ配慮し、言葉かけや対応の工夫も行っている。	入浴は週3回午前中に実施している。その日の体調に応じてシャワー浴や足浴・清拭を実施している。同性介助は希望により応じている。入浴拒否者は、声かけを工夫し、職員を交代したりしている。希望者は入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間はご本人の希望に沿った時間となるよう努めている。夜間、テレビを見たりお話をしたりして過ごされる方もおられる。又、日中の活動を促し、生活リズムが整えられるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表にて薬の用法、用量、副作用を確認できるようにしている。薬は一人ひとり薬箱に入れ、職員2人で服薬時は名前・日付・服薬時間を読み上げ、飲み込まれるまで確認している。ご本人の状態に変化がみられた場合は主治医に相談し、適切な薬の服用について支援を行っている。必要時は、薬剤師にも相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の利用者様との係わりの中で解る、それぞれの利用者様の中の潜在している記憶やできる力を最大限に活かして日々を過ごせるよう努めている。得意な仕事を頼み感謝の言葉を伝えたり、外出や行事等をご利用者様と相談しながら行う等し、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換の支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本年度は数回の外出や外食を行うことができた。又、気候の良い日は近所へ散歩にも出かけた。現在は、ご家族との外出や外食も少しずつ増えてきている。お正月等は、自宅へ帰ることができるようご家族様にも協力を依頼している。</p>	<p>年間行事計画書を作成して、桜・アジサイ・ひまわり・コスモス等、季節ごとの花見ドライブに出かけている。数回家族の支援により外出や外泊ができています。天気の良い日は近隣の散歩に出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナがまん延して以降、利用者様が直接買い物を行うことはできなくなったが、個々の利用者様の希望される買い物等の支援は随時行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持っていらっしゃる方には、充電の声掛けや電話使用の支援を行っている。又、職員の電話を使用しテレビ電話を行ったり、切手やはがきの購入を行い、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所には仕切りがなく、ご利用者様が自由に入出りできるよう配慮している。又、調理の音や匂いを感じながら、家庭的な雰囲気でも過ごすことができるよう支援している。清潔や室温・湿度にも気を付け、居心地よく過ごせる空間となるよう努めている。季節に合わせた飾りつけも行っている。 5S担当者を決め、職員は担当利用者様の環境整備を行っている。	リビングは窓が大きく開放感があり明るい。日よけカーテンを使用して光の調整をしている。エアコンで温度湿度の調整をし空気清浄機がある。定期的に窓を開けて換気を行っている。テレビ・テーブル・椅子・ソファ等がある。壁には季節の手作り作品等を掲示し、季節を感じられるような工夫をして、居心地よく暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個々の状態の変化や利用者様同士の関係性等に配慮し、座席やテーブルの位置を変えている。又、リビングにはソファを設置し、くつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族とお話しをさせていただき、写真や思い出の品、馴染みの物などを用意していただくようお願いしている。入居後も、必要に応じてご本人が希望する品物を持ってきていただくなどし、本人が居心地よく過ごせるように配慮を行っている。	ベッド・エアコン・洗面台・タンス等の設置がある。寝具はリースで、毛布やタオルケット等の持ち込みがある。他にテレビ・タンス・位牌・仏壇・ラジオ・カレンダー・家族写真等の持ち込みがあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全で自立した生活が送れるように、身体機能の変化等に考慮し、個別の環境整備を工夫している。又、職員で話し合いながら安全な生活環境の改善に取り組んでいる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない